



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

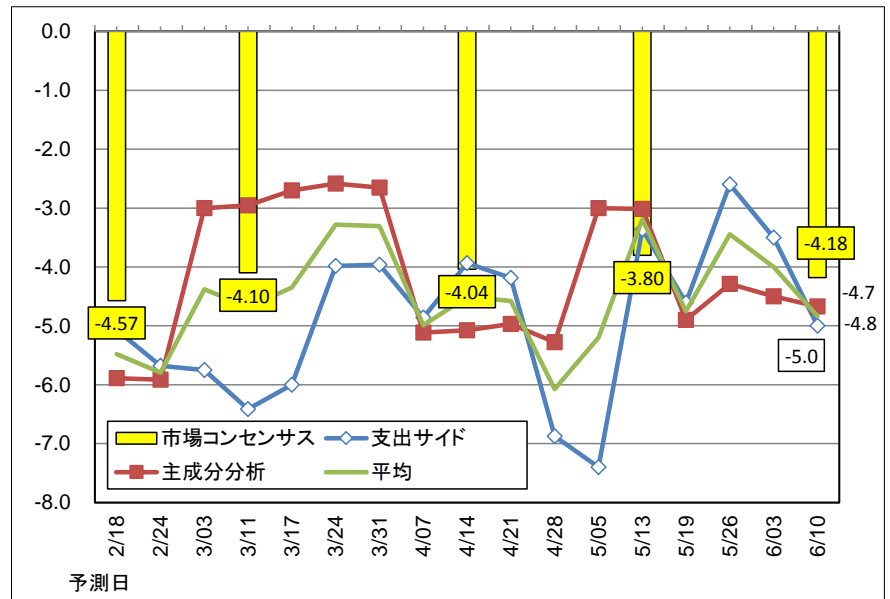
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年6月10日)

ポイント

- ▶1-3月期の実質 GDP2次速報値は前期比年率+6.7%となり、1次速報値から一段と上方修正された。民間企業設備の上方修正が主因。
- ▶4月の消費総合指数は前月比-7.9%大幅低下した。2ヵ月ぶりのマイナス。駆け込み需要の反動で、4月実績は1-3月平均比-5.5%大幅低い水準となっている。実績は事前予測を下回った結果、民間最終消費支出の予測値は先週から下方修正された。
- ▶4月の経常収支は3ヵ月連続の黒字となったが、前年比-76.1%縮小した。季節調整値の経常収支は4ヵ月ぶりに黒字となった。結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正された。
- ▶今週(6/10)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比年率-5.0%と予測。民間最終消費支出の下方修正により先週の予測(-3.5%)から大幅低下した。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年4-6月期(%, 前期比年率換算)



<4月の消費総合指数の大幅低下で、4-6月期のマイナス成長は更に下方修正>

今回予測で更新されたデータは、5月の食料安定供給、4月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス業売上高、国際収支状況及び3月の建設工事費デフレーターである。また1-3月期 GDP(QE: 2次速報値)が追加された。

1-3月期の実質 GDP 成長率(2次速報値)は前期比年率+6.7%となり、1次速報値(同+5.9%)から一段と上方修正された。民間企業設備の上方修正が主因である。

民間最終消費支出の総合的な指標である消費総合指数は、4月に前月比-7.9%大幅低下した。2ヵ月ぶりのマイナス。駆け込み需要の反動で、4月実績は1-3月平均比-5.5%大幅低い水準となっている。すでに発表された4月の家計調査報告によれば、全世帯の実質消費支出は前月比-13.3%大幅減少し、2ヵ月ぶりのマイナス。結果、4月実績は1-3月平均比-7.8%低い水準となっている。4月消費総合指数は事前予測を下回った結果、民間最終消費支出の予測値は先週から下方修正された。

4月の経常収支は1,874億円と3ヵ月連続の黒字となったが、前年比-76.1%縮小した。第一次所得収支の黒字幅が縮小し、貿易・サービス収支の赤字幅が拡大したためである。季節調整値の経常収支は1,305億円と4ヵ月ぶりに黒字となった。結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正された。

今週(6/10)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比-1.3%、同年率-5.0%と予測。民間最終消費支出の下方修正により先週の予測(-3.5%)から大幅低下した。同期は純輸出(前期比+0.6%)が拡大に転じるが、内需が駆け込み需要の反動で大きく縮小(前期比-1.9%)する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690